

# 2017年3月期第3四半期 決算概要

2017年2月8日（水）

株式会社 **力ネカ**

# 目 次

---

業績概要	1
四半期別 売上高・営業利益	2
セグメント別 売上高・営業利益	3
セグメント別 事業概況	4
業績予想	8

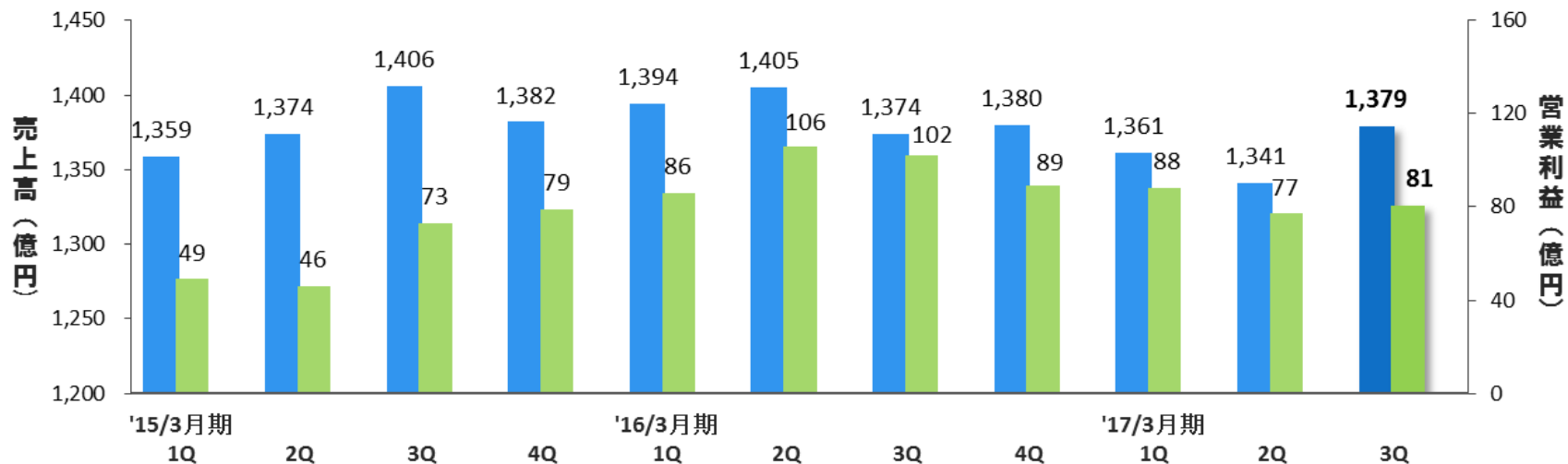
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(単位：億円)

	2016年3月期 3Q累計	2017年3月期 3Q累計	増減	
			金額	%
売上高	4,172	4,081	△ 91	△2.2%
営業利益	294	246	△ 48	△16.3%
経常利益	257	208	△ 49	△19.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	164	130	△ 34	△21.0%
1株当たり四半期純利益	49.15円	39.03円		

- 新製品やスペシャリティの高い製品の拡販を進め、数量増を達成するも、円高の進行やエレクトロニクス市場の需要低迷の影響を受け、減収減益。

# 四半期別 売上高・営業利益



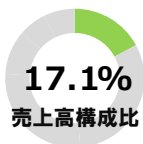
(単位：億円)	2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
<b>売上高</b>	1,359	1,374	1,406	1,382	1,394	1,405	1,374	1,380	1,361	1,341	1,379
<b>営業利益</b>	49	46	73	79	86	106	102	89	88	77	81

# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2016年3月期 3Q累計	2017年3月期 3Q累計	増減		2016年3月期 3Q累計	2017年3月期 3Q累計	増減	
			金額	%			金額	%
化成品	78,172	69,873	△8,298	△10.6%	3,491	4,524	1,032	29.6%
機能性樹脂	69,954	79,930	9,976	14.3%	10,974	10,896	△78	△0.7%
発泡樹脂製品	50,413	49,086	△1,327	△2.6%	5,151	5,007	△143	△2.8%
食品	109,170	111,075	1,905	1.7%	2,472	3,512	1,040	42.1%
ライフサイエンス	43,452	42,090	△1,362	△3.1%	8,638	8,392	△245	△2.8%
エレクトロニクス	30,685	26,612	△4,073	△13.3%	552	△1,300	△1,852	-
合成繊維、その他	35,356	29,413	△5,942	△16.8%	12,645	8,906	△3,739	△29.6%
調整額	-	-	-	-	△14,566	△15,370	△804	-
計	417,204	408,082	△9,122	△2.2%	29,360	24,570	△4,790	△16.3%

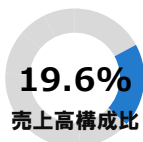
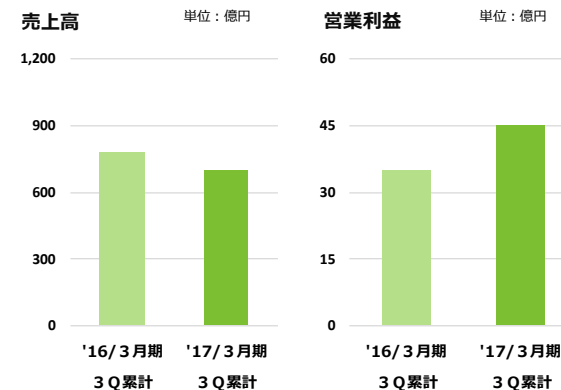
- 化成品は、アジア向け輸出の拡大や塩ビ系特殊樹脂の販売拡大により増益。食品は、新製品の拡大と事業構造改革が進み、増収増益。
- 機能性樹脂は、主力製品の拡販が進み販売数量が増加。円高の影響を受け利益は前年並み。ライフサイエンスは、医薬品・機能性食品の拡販が順調に進むなか、医療機器の血液浄化事業が低調であった。
- エレクトロニクスは、スマートフォン市場の回復遅れや円高の影響を受け、合成繊維は、高付加価値品の拡販やコストダウンに努めたものの、円高及びアフリカ経済の低迷、アジア市場回復遅れの影響を受け、減収減益。



## 化成品

売上高 699億円 (対前年同期 10.6%減) ↓ 営業利益 45億円 (同 29.6%増) ↑

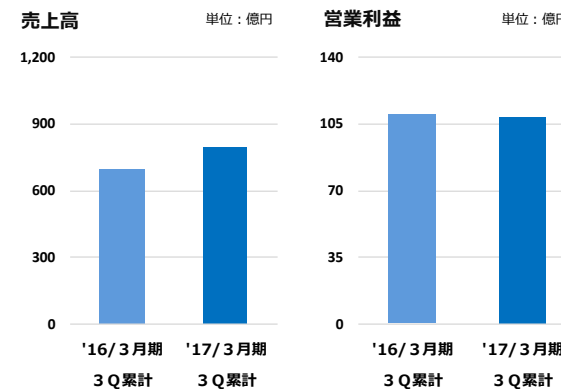
- 塩化ビニール樹脂は、円高と原料価格下落の影響を受けて売上高が減少したが、アジア向け輸出の拡大により収益は改善。
- 塩ビ系特殊樹脂は、塩ビペースト樹脂がアジア向けを中心に好調な販売となったほか、塩素化塩ビも米国及びアジア向けの販売が堅調に推移。
- か性ソーダは、国内需要の回復が遅れ低調に推移。



## 機能性樹脂

売上高 799億円 (対前年同期 14.3%増) ↑ 営業利益 109億円 (対前年同期並) →

- モディファイヤーは、非塩ビ用途向けなどの新用途の拡販が進み、国内・海外市場ともに販売数量が増加。
- 変成シリコンポリマーは、ユニークな品質特性が広く認知され、建築用途に加え工業用途の販売も拡大し、国内外全地域において販売数量が増加。
- マレーシアにおけるモディファイヤーの新系列増設工事(17年3月稼働予定)および変成シリコンポリマーの生産設備新設工事(17年7月稼働予定)は順調に進捗し、稼働後はアジア市場の旺盛な需要に速やかに応えていく。また、16年1月に連結子会社としたセメダイン社と海外展開を中心にシナジーを発揮する様々な取組みを進めている。



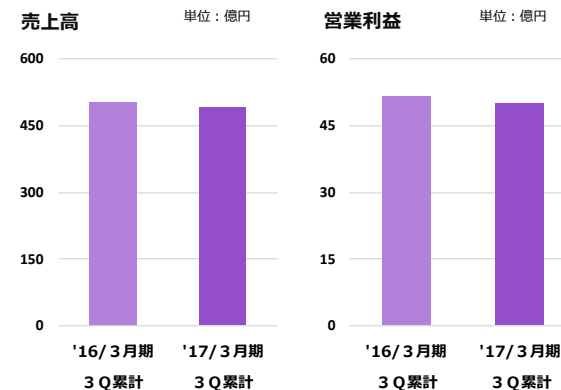


## 発泡樹脂製品

売上高 491億円 (対前年同期 2.6%減) ↓

営業利益 50億円 (同 2.8%減) ↓

- 発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産分野における需要が低調に推移。
- 押出法発泡ポリスチレンボードは、住宅関連市場の回復により販売が堅調に推移。
- ビーズ法発泡ポリオレフィンは、自動車分野向けを中心にアジア市場での販売が拡大。

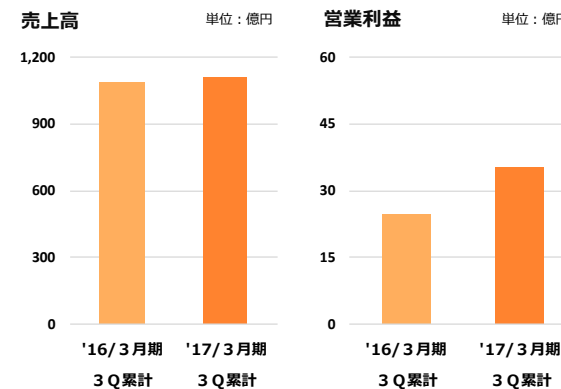


## 食品

売上高 1,111億円 (対前年同期 1.7%増) ↑

営業利益 35億円 (同 42.1%増) ↑

- 国内需要の伸び悩みと食の多様化が進行するなか、研究開発力を強化し、消費者のニーズを先取りした新製品の開発・販売と製品ミックスの高付加価値化を進めている。
- 当第3四半期は、夏場過ぎの天候不順や原料価格高騰の影響を受けたが、新製品の継続的上市とサプライチェーン全体の強化・効率化を目指した事業構造改革が進み、収益性が改善。

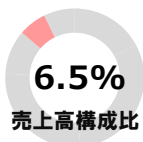
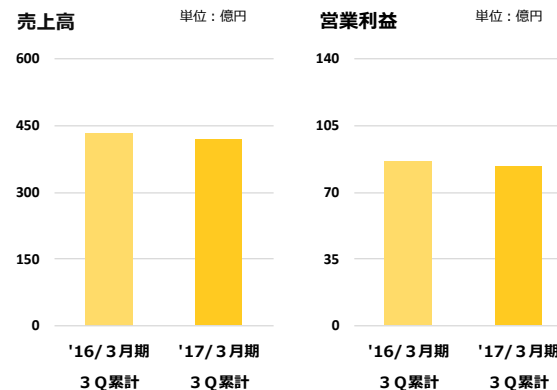




## ライフサイエンス

売上高 421億円 (対前年同期 3.1%減) ↓ 営業利益 84億円 (同 2.8%減) ↓

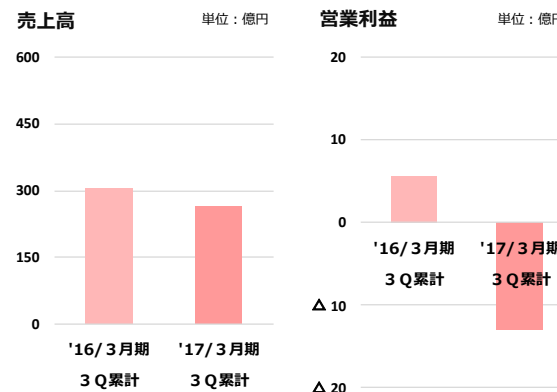
- 医療機器は、血液浄化事業の販売が低調に推移。一方、インターベンション事業は、国内市場では償還価格改定の影響を受けたが、海外市場では他社との共同事業が拡大し販売が着実に増加するとともに、新たな提携先との取り組みも実績化されている。
- 医薬品は、APIやバイオロジクス分野における販売が順調に拡大。
- 機能性食品素材は、最大市場である米国を中心に還元型コエンザイムQ10の販売数量が着実に増加し、日本でも機能性表示食品制度のスタートにより売上が拡大。



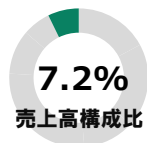
## エレクトロニクス

売上高 266億円 (対前年同期 13.3%減) ↓ 営業損失 13億円

- 超耐熱ポリイミドフィルム、超高熱伝導グラファイトシートは、中国メーカーのスマートフォン高機能化が進み、新たな牽引役である高機能品を中心に販売が拡大したが、スマートフォン市場の全般的な回復遅れや円高の影響を受けた。
- 太陽電池は、新製品の性能向上と美観が評価され、大手ハウスメーカー向けの販売数量が増加するとともに、事業構造改革が進み採算が改善。世界最高レベルの変換効率を有するヘテロ接合技術を用いた新製品や高性能品の販売拡大に一層注力するとともに、ネット・ゼロ・エネルギーハウスの実現に貢献するソリューションの提供に取り組んでいる。





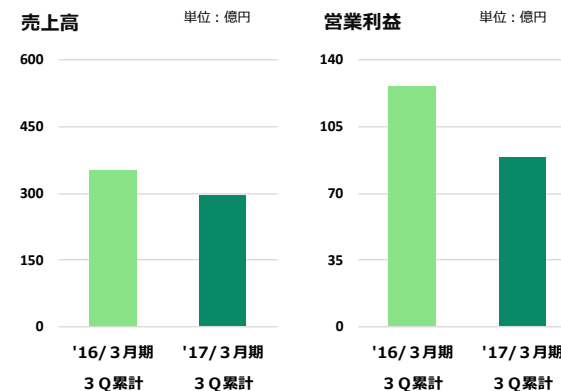


## 合成繊維、その他

売上高 294億円（対前年同期 16.8%減）

営業利益 89億円（同 29.6%減）

- 高付加価値品の拡販やコストダウンに努めたが、円高の影響を強く受けた。また、全般的なアフリカ経済の低迷とアジア市場の回復遅れの影響を受けた。
- 引き続き、研究開発による製品の一層の機能向上と、稼働したマレーシア工場の競争力を活かし、収益の改善を図っていく。



- 当社グループの業績は、円高やスマートフォン市場の低迷などによる影響を強く受けたが、4Q以降は、エレクトロニクス関連市場の需要増や食品事業における新製品の拡販、化成品および機能性樹脂事業における海外販売の拡大、医薬品分野での増販が期待できるなど、業績は全体として回復に転じる見通し。
- 製品の差別化力やコストダウンの更なる強化、新製品の寄与など事業構造改革の取り組みを一段と加速させ、収益の拡大に努める。
- 以上のことから、連結業績予想に変更はありません。

## <参考>2016年11月9日公表の2017年3月期連結業績予想

(単位：億円)

	2016年3月期 通期 (実績)	2017年3月期 通期 (予想)	増減
売上高	5,552	5,600	48 (0.9%)
営業利益	382	385	3 (0.7%)
経常利益	330	340	10 (2.9%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	210	210	0 (0.1%)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

